総合教育センターだより

街路樹

発行 第 ４９ 号
平成23年 2月 8日(火)
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町1-4
0246(22)3705

携帯電話に関する問題への対応

子どもたちが安全，安心に生活できることは，何より大切なことです。しかし，携帯電話に起因する問題は，私たちの目に触れないところで，私たちが気付かないうちに，子どもの心を苦しめます。それに対し，私たち大人は十分な対応ができるでしょうか。

子どもたちが何らかのトラブルに遭ったとき，あるいは遭わないためにはどうすればよいか。それには「知恵」をつけることです※1。しかし，指導する大人は自分で経験していないために，十分な「知恵」があるとは言えません。子どもたちの前に，まず私たち大人が現状を理解することが必要になります。子どもたちに何が起きているか，どんな情報に接しているかを知ることで，子どもを守る具体的な対応，対策となります。

卒業，進級を控えたこの時期こそ，指導が必要です。

フィルタリングについて
- 携帯電話のフィルタリングは，未成年者名義に対する義務であり，保護者名義には適用されない※2。
- フィルタリングしても，正規のサイトならば着メロや着うたがダウンロードできる。（違法ダウンロードができなくなる）

最近の問題として
- メールでの架空請求に応じる被害が多い，
- 「無料」のゲームサイトで，高額な請求をされる被害が増加。
- ゲームサイトには様々なコミュニケーションの場も用意されている。
- 福祉犯罪の被害は，出会い系サイトより，mixiやGREEに代表されるSNSなどの非出会い系サイトに起因することが多い。
- 福祉犯罪の被害は，知らない人からのメールに返信することから被害につながる例が多い。

掲示板への誹謗中傷などに対して
- 対応には必ず記録を残す。記録の積み重ねが後々重要になる。
- 「やめてください」などと掲示板に書き込まずに，管理人などへ削除依頼で対応する。
- 誹謗中傷など個人の権利が侵害された場合，削除や発信者の情報開示請求については法律※3で規定されている。

※1 情報モラルには，心を磨く「情報倫理」と，知恵を磨く「情報安全」の両方が必要であると言われる。
※2 小6の94%，中2の87%が保護者名義
（平成21年2月文科省「子どもの携帯電話等の利用に関する調査」）
※3 プロバイダ責任制限法

授業改善・指導技術 30

～ ワークシート ～

1 なぜワークシート学習か。（功）
① 教え込みから個別学習への切りかえの一つの方法となり、一人ひとりの学習を保障し充実させる。
② じっくり考え、自分の考えをまとめさせることができる。

2 ワークシートの落とし穴（罪）
① 安易な使用により、子どもの思考のあり方を狭いものにしてしまうことがある。
② 学習の効率化は図られるが、画一化・一斉化してしまうことがある。

↓

ワークシートを授業に生かすためには

↓

※1 教室は、本来「相互交流・相互啓発としての学習」の場であり、一人の考えは他との交流を通して確かなものになる。一人の学びを無駄なく、充実したものにするようにつくらなければならないし、生かされなければならない。。すなわち、一人学びを発表し合うことで、自分のものを見直し、さらには書き足し（補足）や書き直し（修正）をしていくものとして工夫していく必要がある。

つまり、**ワークシートは、一人ひとりの活動内容をとらえ、それを全体学習の場に生かすためのものである。**

※2 ワークシートをつくり、使うのは教師である。どのような授業を進めようかという教師の考え方が、ワークシートのつくり方、使い方を左右する。また、逆に、授業のためにワークシートを使うと、そのワークシートが授業を左右する。

したがって、ワークシートが問われるということは、授業のあり方が問われるということである。

― 国語教育の方法（田辺洵一 著）より引用 ―

学級経営のヒント 28

～ 朝の会・帰りの会運営の工夫 ～

朝の会は、一日のよいスタートを切る時間、健康観察や連絡など学校生活を送るための基本的時間である。帰りの会は、一日を振り返り、明日につなげる時間である。次のことを考慮したい。

1 **声を出すこと・発表**や身振り手振りは活力・連帯感を生み出す。
あいさつ、歌、スピーチ、グループ発表、朗読、ゲーム、係からの連絡や活動報告、よさをみつけ称揚するなど

2 子どもの様子を観察し、表情・返事・様子から**気になる子にはひとこと言葉をかける**など気を配る。

3 教師の話は、子どもが先を見通して生活・学習できるように簡潔に伝えるとともに、行事や季節、できごとなど学年に即して工夫する。ポイントを絞って指導することを盛り込むことも考える。

4 年間を通して行うものと内容を変えるものを子どもたちと話し合ってきめ、**子どもたちに自主的に運営**させる。

5 朝の会でめあてをきめたら、帰りの会で評価し合う。

学級づくりは、すべての教育活動を通して行うが、朝の会・帰りの会は、**毎日、直接学級経営できる時間と考え、児童生徒の発達段階・実態に応じて、ねらいを持って取り組みたい。**

今月のひとこと ⑤

～ 個性を見る・見守ること ～

子どもは一人ひとり異なる個性を持っているように、木もまた一本一本個性がちがうので、そこを見極めないと移植でもなんでもうまくいきません。湿った所が好きな植物もいれば、それでは育たない植物もいます。

子どもも既製品のように画一化した扱いをしたら、個性の芽をつむことになるでしょう。1つのことを繰り返してやって、やっと身に付く子どもと、一回で覚えてしまう子どもがいますよね。それぞれ違うのですから、そこを比べるのではなくて、それぞれが何を夢中でやっているのか、どんな土壌が一番向いているのかをしっかり見ることが必要でしょう。人も植物も個性にふさわしい場所を与えて、しっかり見守りながら世話をすれば、すくすく育っていくものなのです。

あしかがフラワーパーク園長（女性樹木医第1号）塚本こなみ氏
2008．10教育ジャーナル